

(仮称) 湯田温泉パーク (多世代交流・健康増進拠点施設) 基本設計【概要版】(案)

令和 4 年 3 月 山口市

《目次》

- 01 湯田温泉のまちづくりの方向性
- 02 (仮称) 湯田温泉パーク整備方針
- 03 建築概要
- 04 施設機能
- 05 配置計画
- 06 平面計画
- 07 デザインコンセプト
- 08 施設の特徴
- 09 附帯設備
- 10 ユニバーサルデザイン計画
- 11 環境計画
- 12 防災計画
- 13 工程計画・整備スケジュール・概算事業費

DRAFT (211216 時点)

※紙面レイアウトおよびデザインについては、今後調整を行います。

住んでよし・訪れてよしの湯田温泉

*** [鳥瞰イメージ] ***

1. 本市の都市核づくり

本市では、第二次山口市総合計画における目指すべき将来都市像に「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口」を掲げ、その実現に向けた都市政策の柱に「広域県央中核都市づくり」と「個性と安心の21地域づくり」を位置づけ、山口・小郡の両都市核、そして市内21地域においてそれぞれの特性や役割に応じた諸機能を集積し、それらをネットワーク化する重層的コンパクトシティを目指しています。

こうした中、小郡都市核では、新山口駅ターミナルパーク整備や産業交流拠点施設の整備、そして、山口都市核では、亀山周辺ゾーン及び中心商店街ゾーンにおける新本庁舎の整備や中心市街地の活性化、大内文化ゾーンにおける歴史文化資源の保存、活用による、ゾーン全体の回遊性促進を図る拠点整備、情報・文化ゾーンにおける芸術文化の創造や次世代を担う子どもたちへの教育支援、(仮称)湯田温泉パークを中心とした湯田温泉ゾーンの活性化などに取り組んでいます。

また、これまで、次世代を担う創造的な人材を生み出す場として「YCAM(山口情報芸術センター)」の整備や、産業人材や産業交流を生み出す場として「産業交流拠点施設」の整備など、本市の特性や地域資源を生かし、まちの価値を高める魅力的な公共空間や都市空間の形成を進めてきました。

そして、この度、地域や世代を超えた交流を通じた新たなつながりを築き、市民の皆様の暮らしを豊かにする新たな交流創造の場として、「(仮称)湯田温泉パーク」の整備や、周辺整備を進めることで、市民の皆様の暮らしの価値を高め、そして、山口の新たな価値を創造します。

「重層的コンパクトシティ」



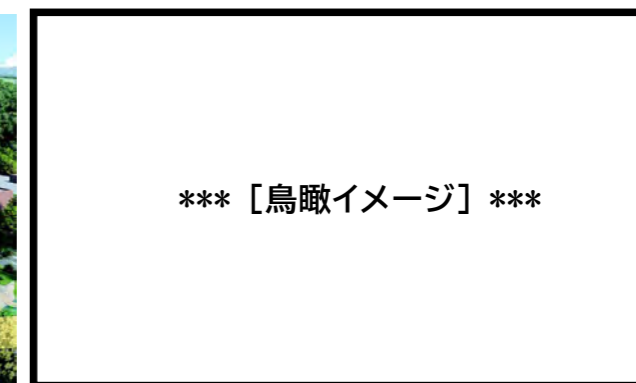
【産業交流拠点施設の整備】



【YCAM(山口情報芸術センター)の整備】



【新本庁舎の整備(R6完成予定)】



【(仮称)湯田温泉パークの整備】

2. 湯田温泉の観光地域づくり～住んでよし・訪れてよしの湯田温泉～

本市では、「住んでよし・訪れてよしの湯田温泉」を湯田温泉の発展の方向性として位置付け、市民に対し、温泉といった地域資源や、地域の歴史、文化に対する誇りを育み、住民の暮らしに根づいた地域資源の磨き上げを行うことで、市民、観光客、双方に魅力を感じていただける、県内随一の温泉地を目指しています。

住んでよし・訪れてよしの湯田温泉

住んでよしの湯田温泉 ～日本一住みたい温泉市街地～

都市機能が集まる市街地の中心に温泉がわき出しているという全国でも特徴的な地域資源を活用し、湯田温泉を始め、本市に住んで良かった、住んでみたいと思っただけの魅力を高め、豊かな暮らしと交流、定住促進のまちづくりを進めています。

訪れてよしの湯田温泉 ～県内随一の宿泊・保養拠点～

県内最大規模の宿泊・保養拠点である、湯田温泉の歴史や文化を生かした空間整備を行うことで、観光客が地域内を回遊し、地域住民とのふれあいを通じて、その地域に再び訪れたいと思っただけの観光地域づくりを進めています。



こうしたまちの実現に向け、日中や夜間も市民や観光客でにぎわい、市民が日常的に湯田温泉を訪れ、湯田温泉のある暮らしを楽しみ、市民同士や観光客との様々な交流を楽しむことができる公共空間をまちなかに形成し、地域や世代を超えたつながりを築き、生活を豊かにする、新たな交流の場を創出します。

3. 湯田温泉ゾーンの整備

湯田温泉ゾーンにおいては、拠点施設の整備や各通りの美装化などを通じたゾーン内の回遊性の向上及び歩行者の安全確保や、外周道路整備や湯田温泉スマートICなどの整備を通じた湯田温泉へのアクセス性の向上の取組を進めています。

- : 湯田温泉ゾーン((仮称)山口市都市核づくりビジョン)
- : 県道204号南側を始めとした整備等(H22~R1)
- : 県道204号北側を始めとした整備予定箇所(R2~)

④湯田温泉二丁目赤妻町線の美装化

湯田温泉二丁目泉町線の美装化

⑤県道204号の整備促進

温泉街エリア

公園通り美装化

湯の町通り等の美装化

泉町平川線整備(県事業)

湯田地域交流センター増築

市道上東湯田温泉五丁目線

錦川通り

県道204号 宮野大歳線

一本松朝倉線 未整備区間の整備

①市道上東湯田温泉五丁目線の整備

③市道上東湯田温泉五丁目線と錦川通りを結ぶ路地の整備(整備箇所は未定)

②錦川通りの修景整備

錦川通りと県道を結ぶ路地整備(整備箇所は未定)

狐の足あとの整備

何遠亭を含む井上公園の整備

湯田温泉スマートインターチェンジ

湯田温泉駅周辺整備

バス停の整備

湯の香通りの整備



イメージ (検討中)

①市道上東湯田温泉五丁目線の整備



イメージ (検討中)

②錦川通りの修景整備



イメージ (検討中)

③市道上東湯田温泉五丁目線と錦川通りを結ぶ路地の整備 (整備箇所は未定)



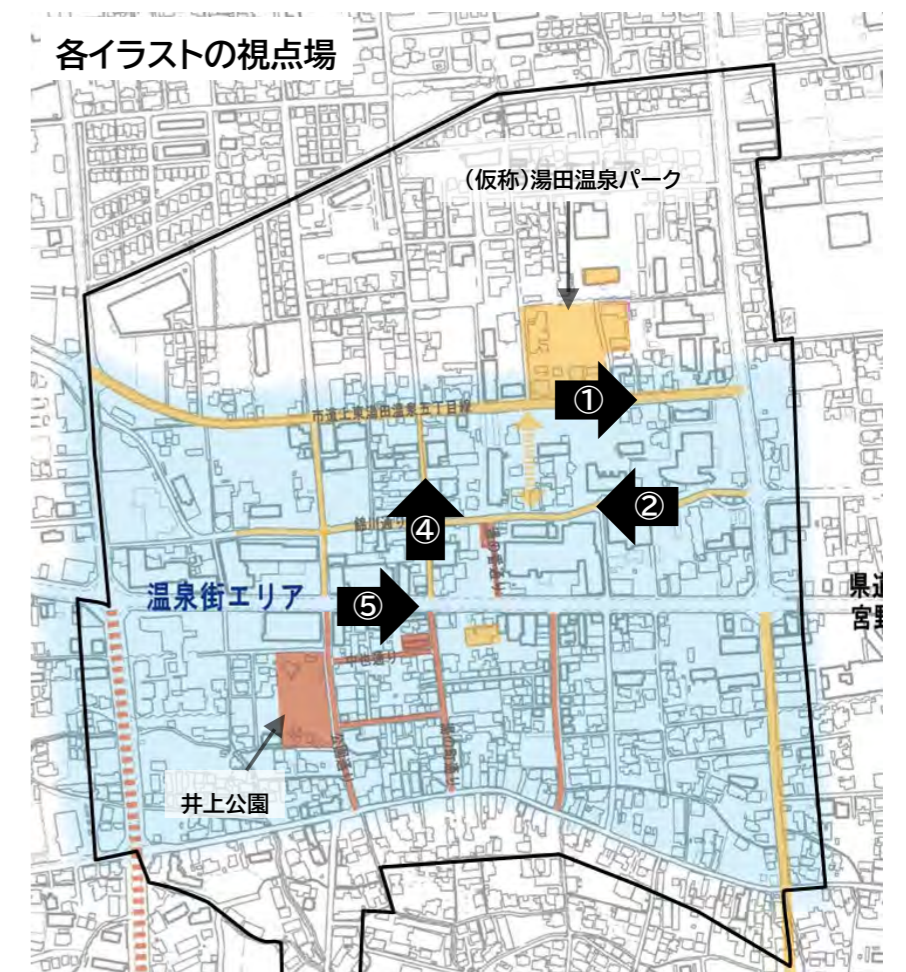
イメージ (検討中)

④湯田温泉二丁目赤妻町線の美装化



イメージ (検討中)

⑤県道204号の整備促進



このページの各スケッチは、(仮称)山口市都市核づくりビジョンで検討を進めている、現時点のイメージです。

(仮) 湯田温泉の恵みと 大屋根で広がる 豊かな暮らしの拠点

*** [施設正面イメージ] ***

※あくまで現時点でのイメージであり、実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります

02 (仮称) 湯田温泉パーク整備方針

本施設は、住んでよし・訪れてよしの湯田温泉の実現に向けた重点プロジェクトとして、都市型温泉という全国でも特徴的な地域資源を活用した定住実現の都市空間を形成することで、魅力的なまちづくりに資することを目指しており、平成31年3月に策定した基本構想において、本施設が目指す姿を、「温泉資源を活用した豊かな暮らしと交流の拠点」と位置付けました。

こうした施設の目指す姿を踏まえた中で、令和2年10月に策定した基本計画の策定段階においては、湯田温泉を始めとした関係団体や関係者との協議を重ねつつ、市民アンケート調査や寿泉荘の利用者に対するアンケート調査、そして、市民ワークショップ、パブリック・コメントなどの様々な手法を通じて、幅広く市民や関係者の皆様の御意見などを伺ってきました。そして、これまでいただいた御意見や御提案を踏まえた、施設の整備方針を整理しています。

また、施設の特徴や活用コンセプトを踏まえ、本施設の特徴を市民の皆様に分かりやすく伝えるため、本施設の名称を「(仮称) 湯田温泉パーク」といたしました。

整備コンセプト

(仮)「湯田温泉の恵みと 大屋根で広がる 豊かな暮らしの拠点」

本整備コンセプトについて、「湯田温泉の恵み」は、温泉資源を始め県内有数の多くの飲食機能や都市機能が集まるという全国に類を見ない都市型温泉地を、「大屋根で広がる」は、本施設の最大の特徴である大屋根広場を、「豊かな暮らし」は、美しい山並みに囲まれ自然と調和した県都での暮らしや、世代や地域を超えた新たな市民交流を始めとした暮らしの魅力を表現しています。

また、本施設は、市民が日常的に訪れ、温泉の恵みや様々な交流を楽しむことができる施設、温泉文化を醸成し、市民の湯田温泉に対する愛着を育む施設、さらに、市民と観光客の交流を創出する観光地域づくりの拠点を目指します。



整備の特徴

- ・ 市民が日常的に利用できる全天候型の大屋根広場を整備します。
- ・ 大屋根広場とともに、温浴施設や文化体験スペースなどの様々な機能をもつ施設とし、それぞれの施設機能が生み出す相乗効果により施設全体の利用を高め、さらには、街への新たな人の流れを生み出す複合施設として整備します。
- ・ 地域イベントや観光イベント、湯田温泉の各団体等によるイベントの開催も可能となる施設とします。



多世代の市民等が自由に利用し、心身の健康増進を図る活用コンセプト

アソビバ
～イキイキ遊ぶ～

マナビバ
～ワクワク学ぶ～

タマリバ
～ノビノビ過ごす～

アソビバ ～イキイキ遊ぶ～

子どもから高齢者まであらゆる世代が、施設全体を使って、自由な発想でそれぞれの世代に応じた“アソビ”を生み出し、“アソビ”のある充実した暮らしを提供する場です。



*** [ボールプールで遊ぶ様子] ***

*** [ポッチャの様子] ***

マナビバ ～ワクワク学ぶ～

あらゆる世代の生涯学習の場としての活用や、市民の好奇心をくすぐる新たな“マナビ”を生み出し、“マナビ”を通じて人生を豊かにする場です。

*** [親子科学教室の様子] ***

*** [高校生が自習する様子] ***

*** [高齢者の健康教室の様子] ***

タマリバ ～ノビノビ過ごす～

市民のサードプレイスとして、気軽に訪れ、自らの時間を過ごしたり、また、アフターコンベンションなどのイベント会場としての活用や、市民同士や観光客との交流を図るなど、豊かな時間消費を楽しむ場です。

*** [子育て世代の交流の様子] ***



*** [アフターコンベンションの様子] ***

03 建築概要

1. 敷地概要

所在地	山口市湯田温泉五丁目
敷地面積	約 8,090 m ²
用途地域	商業地域
指定容積率	400%
指定建蔽率	80%
その他指定	準防火地域、駐車場整備地区
周辺道路	【南側】市道上東湯田温泉五丁目線 【西側】市道湯田温泉五丁目 4 号線 【東側】市道湯田温泉五丁目 3 号線
立地適正化計画	・都市機能誘導区域 ・敷地を含む湯田温泉ゾーンにおいて、「温泉を活用した健康増進・保養施設」及び「料飲店」を集積すべき施設として位置づけ
その他	泉源（市有特 1 号、湯田温泉 18 号、湯田温泉 21 号）



湯田温泉白狐まつり



井上公園 足湯



飲食施設

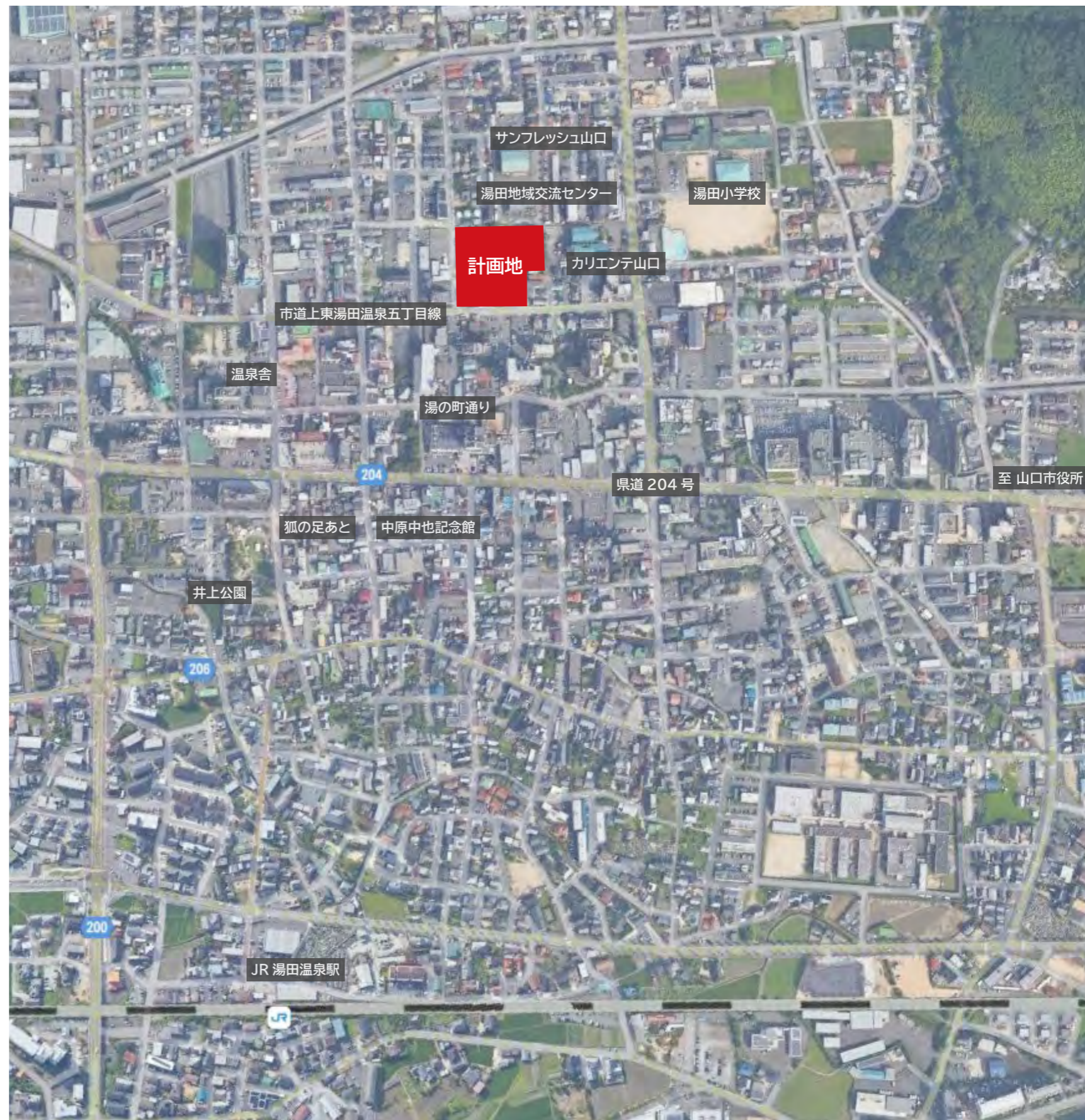


宿泊施設

2. 建物概要

延床面積	約 3000 m ²
建築面積	約 3385 m ² (北・南屋外大階段除く)
階数	地上 2 階
構造	鉄骨造 一部 鉄筋コンクリート造
建物高さ	約 15m
駐車台数	平面駐車場約 55 台 (うち屋根付き車いす使用者用駐車場 2 台)

3. 周辺状況



4. 外観イメージ

*** [施設外観イメージ] ***

※あくまで現時点でのイメージであり、実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります

1. 施設機能

① 交流機能：約 2,290 m²

- 半屋外型の大屋根広場を施設の中央に配置し、全天候型の市民交流が可能な空間とします。
- 大屋根広場におけるイベント時の防音対策として、大型可動式扉により屋内化することができるような計画とします。
- 大屋根広場に面して2階へつながる大階段を設けて、立体的な連携が取れる構成とします。
- 多目的スペースや文化体験スペースを大屋根広場に面して開放させることで、一体的な利用が可能な計画とします。
- 多目的室は他の交流機能等と連携が可能なスペースとします。
- 文化体験スペースは展示空間として、飲食機能と連続して、気軽に立ち寄れるオープンな空間とします。

② 温浴・健康機能：約 560 m²

- 60歳以上が対象の山口市老人憩いの家「寿泉荘」を、あらゆる世代が利用できる多世代型の温浴機能として更新します。
- 湯田温泉の歴史や文化、お湯の特性など、利用者が温泉文化を身近に感じられる空間として整備します。
- 2つの浴室を異なる設えとし、男女を入れ替えて運用することを想定しています。
- 貸切風呂を設け、バリアフリー対応の浴槽を設置します。
- 浴室等の主たる機能は交流機能とは切り離れた位置とします。周囲には足湯を整備します。
- 休憩室は交流機能と繋ぐ空間として大屋根広場に面して設け、温浴機能の雰囲気を通り出させる工夫を施します。

③ 飲食機能：約 150 m²

- 本施設の利用者の快適性と利便性を高める機能として整備します。
- 湯田温泉全体の飲食需要が高まり、周辺の飲食店に波及効果を生み出すような機能を整備します。

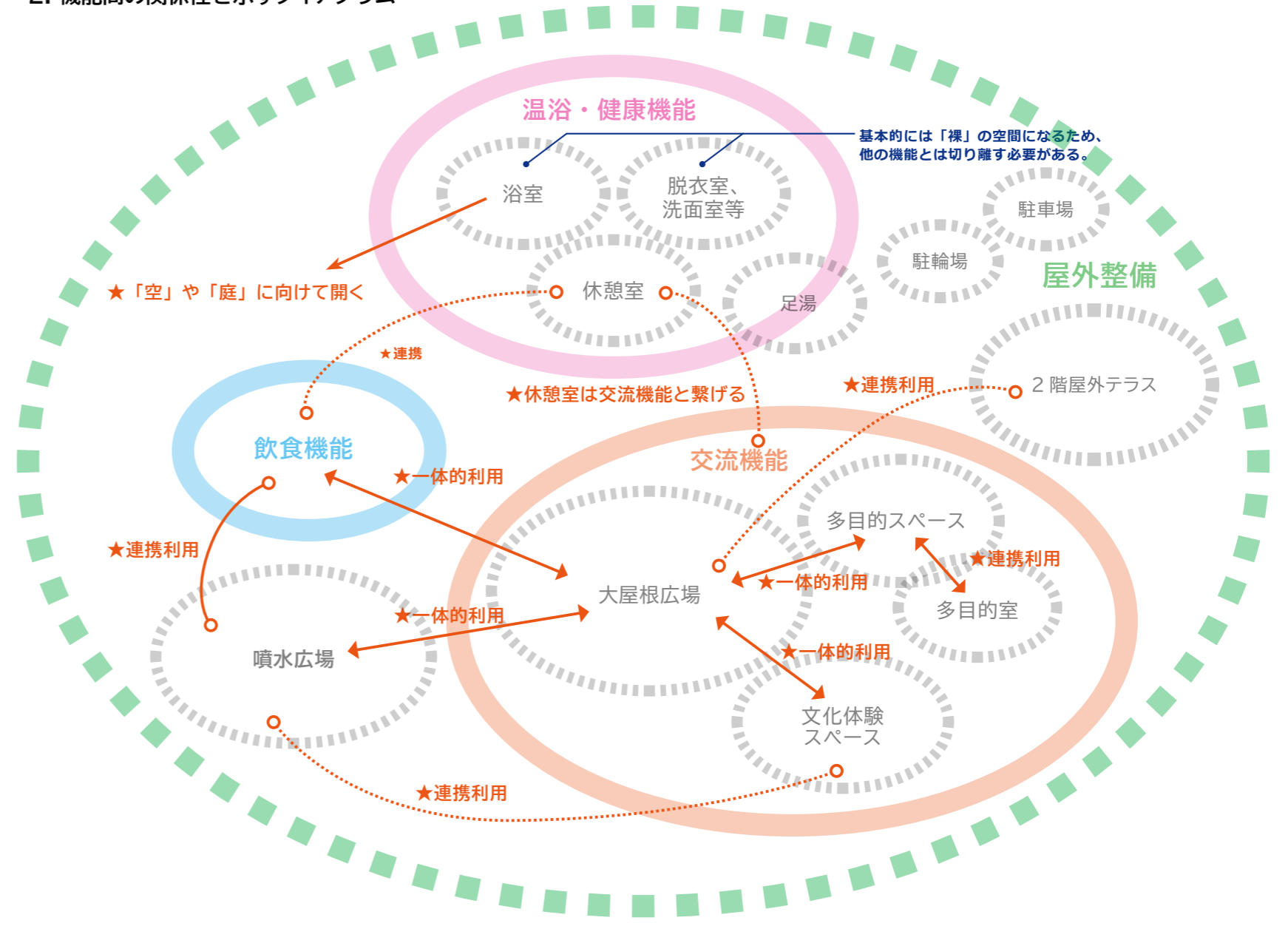
④ 屋外機能

- 前面道路側に噴水広場、キッチンカースペース、地域交流センター側に緑地を設けるなど、外周部にも賑わいを創出します。
- 大規模イベント開催時に、大人数に対応できるよう飲食やトイレ機能が拡張できる計画とします。
- 2階には屋外テラスを設け、施設全体において立体的な回遊を創出します。各所にアクティビティを創出する仕掛け（オープンキッチン、アートウォール、遊具、植栽帯、など）を設けて、多様な活動が行える空間として設えます。
- 付帯機能として、駐車場と駐輪場を整備し、シェアリング機能を導入出来るような構成とします。

⑤ その他

- 各機能に付随してエントランスや総合案内所や事務室、共用部分を適切に配置していきます。

2. 機能間の関係性を示すダイアグラム



3. 面積配分

交流機能		温浴・健康機能		飲食機能	
大屋根広場	約 1,000 m ²	浴室	約 300 m ²	施設	約 100 m ²
多目的スペース	約 200 m ²	休憩室	約 30 m ²	その他	約 50 m ²
多目的室	約 100 m ²	その他	約 230 m ²		
文化体験スペース	約 200 m ²				
その他	約 790 m ²				
小計	約 2,290 m ²	小計	約 560 m ²	小計	約 150 m ²
				合計	約3,000 m ²

05 配置計画

1. 前提となる条件

① 法令上の条件

- ・用途地域は商業地域に指定されており、建蔽率 80%、容積率 400% が指定されています。
- ・景観条例において、一般地域に指定されています。
- ・駐車場整備地区に指定されており、施設規模に応じた駐車台数の確保が必要となります。

② 施設の特性による条件

- ・半屋外型の大屋根広場を設けます。
- ・交流機能、温浴・健康機能、飲食機能等を含む複合用途の施設とします。
- ・敷地内にある寿泉荘や消防分団車庫は利用を途絶えさせずに、建替えを行う必要があります。

③ 敷地の特性による条件

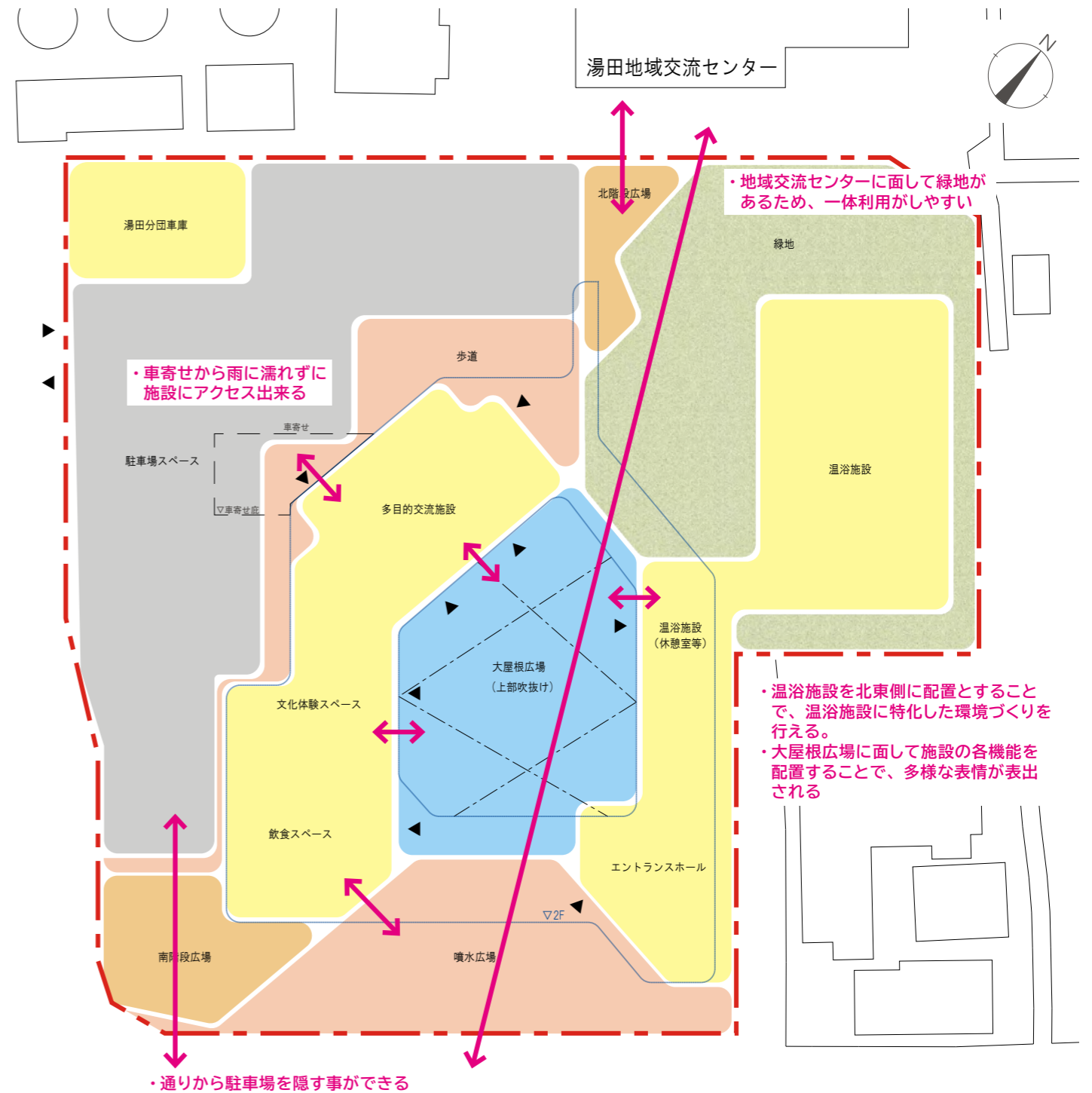
- ・敷地内の 3 箇所に温泉の源泉が存在します。
- ・北側に地域交流センターがあり、アクセス性や利用における連携のしやすさに配慮する必要があります。
- ・周辺は住宅地であり、防音対策等の住環境への影響に配慮する必要があります。
- ・周辺交通へ配慮し、駐車場へのアクセスは西側道路から行う計画とします。西側道路は拡幅を検討します。
- ・浸水対策のため、敷地内に雨水貯留槽の設置を検討します。

2. 建物の配置

建物を雁行して配置し、噴水広場・大屋根広場・緑地をずらしながら配置し、前面道路から本施設の中を通過して地域交流センターのある奥へと導く構成です。下記のような特長があります。

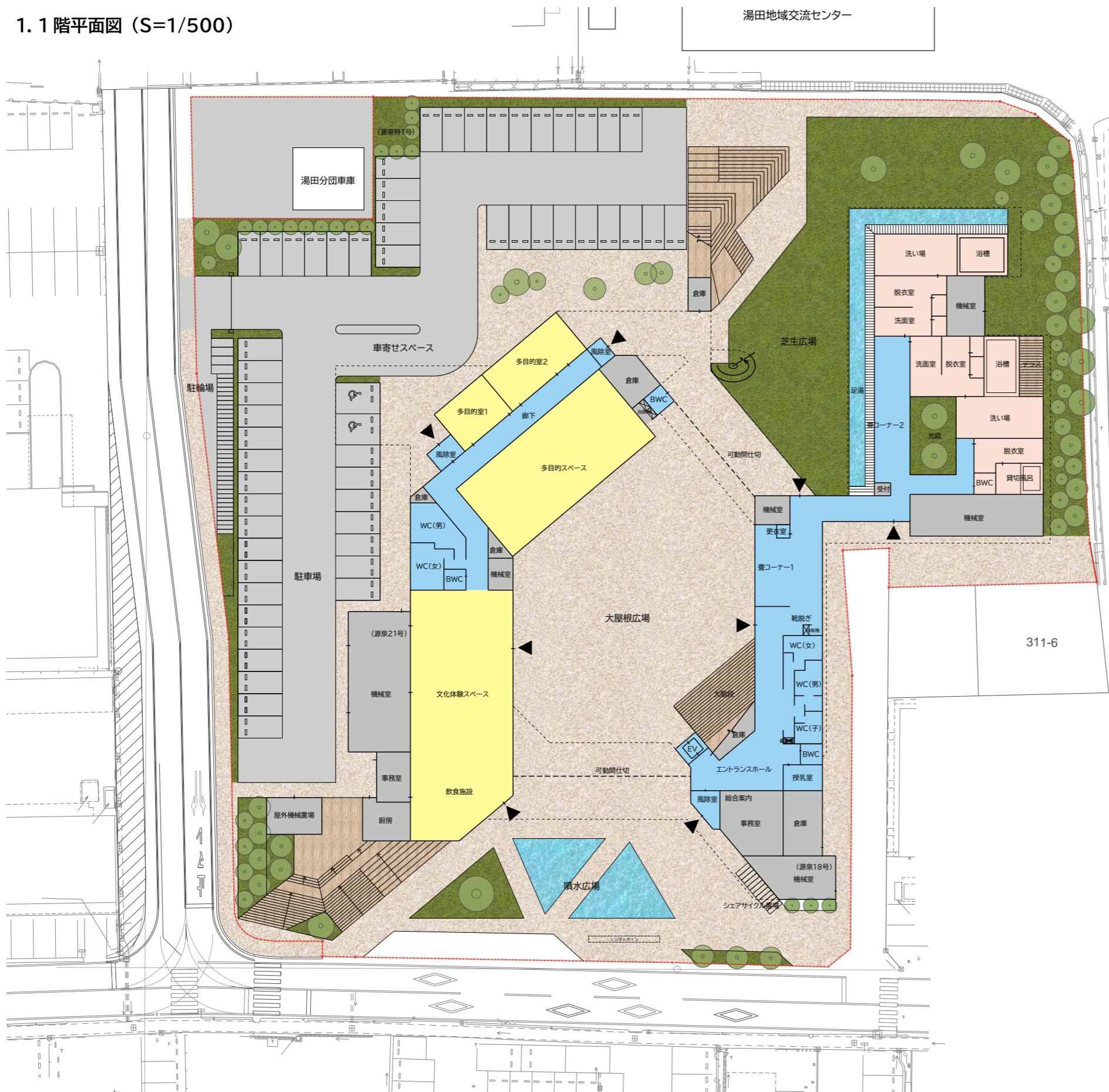
- * 機能を細かく分散して配置することで、敷地全体に多様な雰囲気的空間をつくりやすい。
- * 建物を雁行配置とすることで、奥の空間が見え隠れしながら、自然と奥へ誘われるような空間をつくり出すことができる。
- * すべての機能が大屋根広場に面しているため、大屋根広場との一体感を創出しやすい。
- * 噴水広場と飲食機能が前面道路に面しているため、賑わいを創出しやすい。
- * 駐車場を敷地西側に配置することで、通りから隠すことができる。
- * 温浴機能を敷地北側に分棟のように配置することで、周辺に緑地などを配置した雰囲気づくりを行いやすい。また大屋根広場におけるイベント時に、温浴施設の利用のしやすさに配慮できる。
- * 地域交流センターに面して緑地があるため、一体利用が可能なたままとまった空間をつくりやすい。
- * 車寄せに庇（屋根）を設けることで、雨に濡れずに施設にアクセスできる。

◆配置計画ダイアグラム



06 平面計画

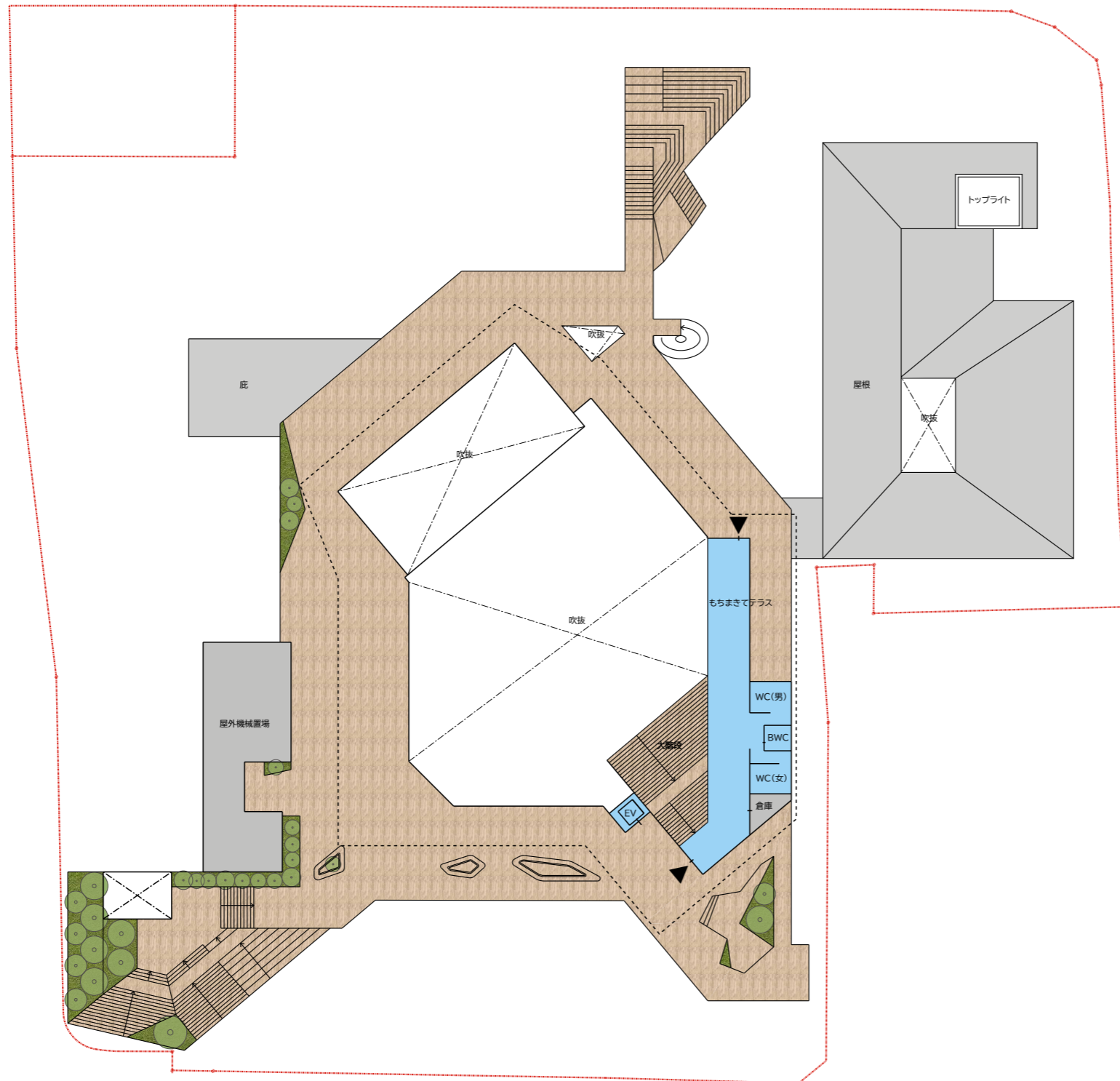
1.1 階平面図 (S=1/500)



【プランニングのポイント】

- ・施設中央の大屋根広場により求心性を持たせ、広場を取り囲むように様々な活用ができる空間を設けることで、賑わいを増幅させます。
- ・壁面の角度を振ることで、前面の噴水や中央の大屋根広場から地域交流センターへと導く軸線をより強調します。
- ・バリアフリーや使い勝手に配慮したトイレ（バリアフリートイレ、子どもトイレも含む）や授乳室を計画します。
- ・駐車場から建物へのアクセス性にも配慮し、建物入口を複数箇所に設けます。

2.2 階平面図 (S=1/500)



【プランニングのポイント】

- ・屋外テラスを全面的に設けて、建物全体を回遊できる計画とします。
- ・前面道路や地域交流センター側から直接2階へアクセスできる大階段を設けて、2階レベルでも周辺地域と連続する計画とします。
- ・大屋根広場に面しても大階段を設けることで、2階と1階を繋げると同時に、座れるような場所を設置することで、イベント時等にも活用できる空間とします。
- ・大屋根広場を見下ろすテラス空間を設けて、イベント時等に立体的な活用ができるスペースとします。

施設コンセプト

子どもから高齢者まであらゆる世代が、施設全体を使って、自由な発想でそれぞれの世代に応じた“アソビ”を生み出し、“アソビ”のある充実した暮らしを提供する場

アソビバ
～イキイキ遊ぶ～

(仮称) 湯田温泉パーク

マナビバ
～ワクワク学ぶ～

タマリバ
～ノビノビ過ごす～

あらゆる世代の生涯学習の場としての活用や、市民の好奇心をくすぐる新たな“マナビ”を生み出し、“マナビ”を通じて人生を豊かにする場

市民のサードプレイスとして、気軽に訪れ、自らの時間を過ごしたり、また、アフターコンベンションなどのイベント会場としての活用や、市民同士や観光客との交流を図るなど、豊かな時間消費を楽しむ場

×

「湯田モダン」のデザインスタイル

湯田温泉においては、近代化と共に失われつつあった温泉情緒を蘇らせるため、観光地としての賑わいだけでなく、都市的な賑わいや豊かな自然も併せ持つ湯田温泉ならではの環境をイメージし、素材や形状において昔ながらのものと現代的なものを組み合わせたり、職人の技と最新の技術を組み合わせたりした「湯田モダン」というデザインスタイルを展開してきました。



徐々に浸透しつつあるこのスタイルを、次世代へ発展的に引き継いでいくべく、次のステージの「湯田モダン」を提案します

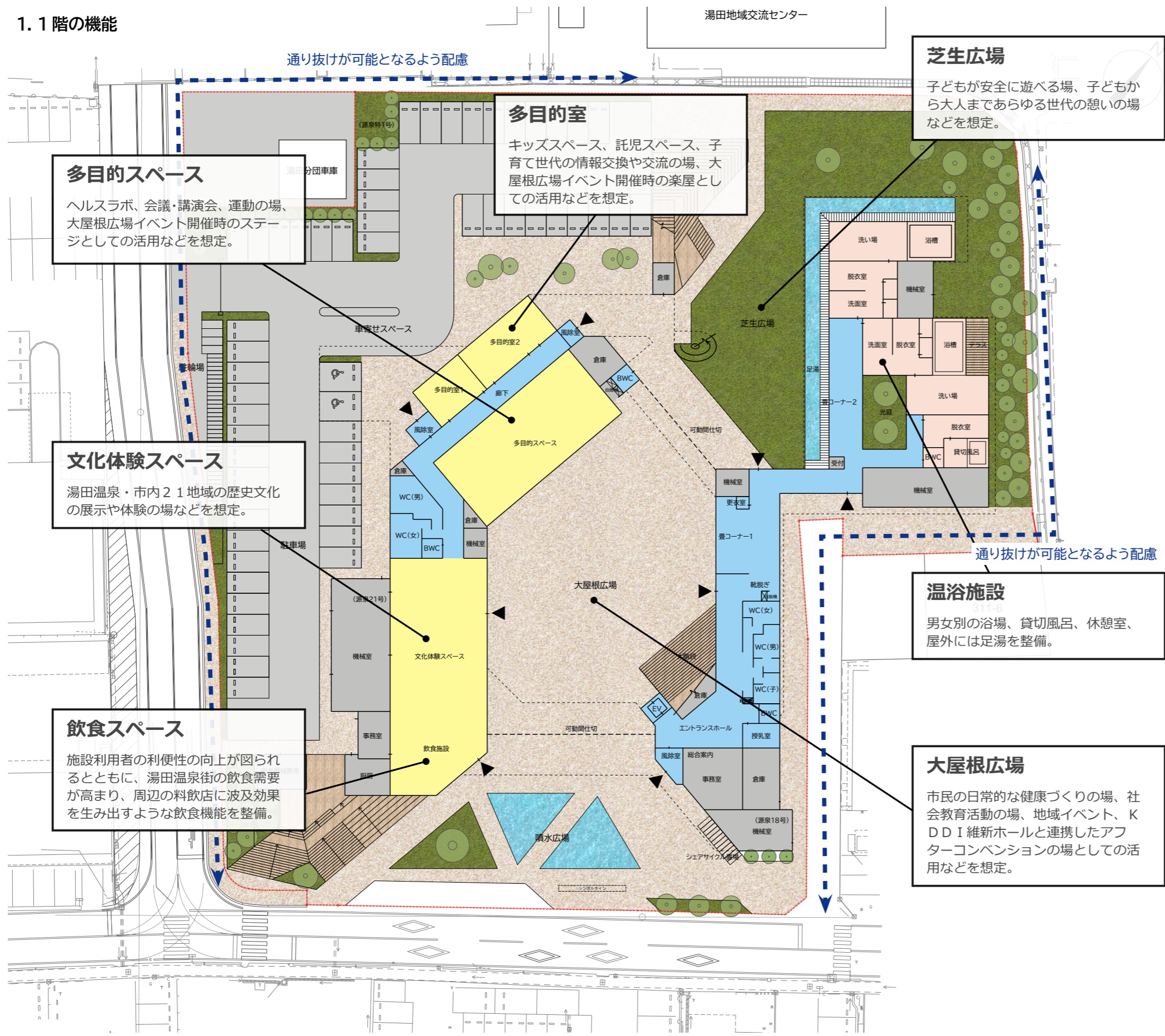
-Next YUDA Modern Style- ”ココロオドル”

「伝統と革新」「職人技と現代技術」を融合させた”湯田モダン”のスタイルをさらに発展させ、“イキイキ・ワクワク・ノビノビ”を感じさせるような躍動感のあるデザインで、健康で活気あふれる街の新たな拠点をつくります

- * 健康で活気あふれる街の新たなシンボルとなるため、心躍るような「躍動感」を感じさせるデザインとします。
- * 周囲を取り囲む山並みの大らかなシルエットをモチーフとしながら、多角・多面といった形状を導入することで、建物ボリュームにも動きが生まれ、賑わいの雰囲気を増幅します。
- * 植物や自然素材をなるべく多く使用することで、「バイオフィリア効果」も期待でき、健康的で心地よい雰囲気をつくりだします。
- * インテリア空間では、アクセントとなるような鮮やかな色彩やテクスチャー感をもった素材も部分的に使用することで、元気で活発な雰囲気を演出します。

*** [コンセプトイメージ] ***

1.1 階の機能

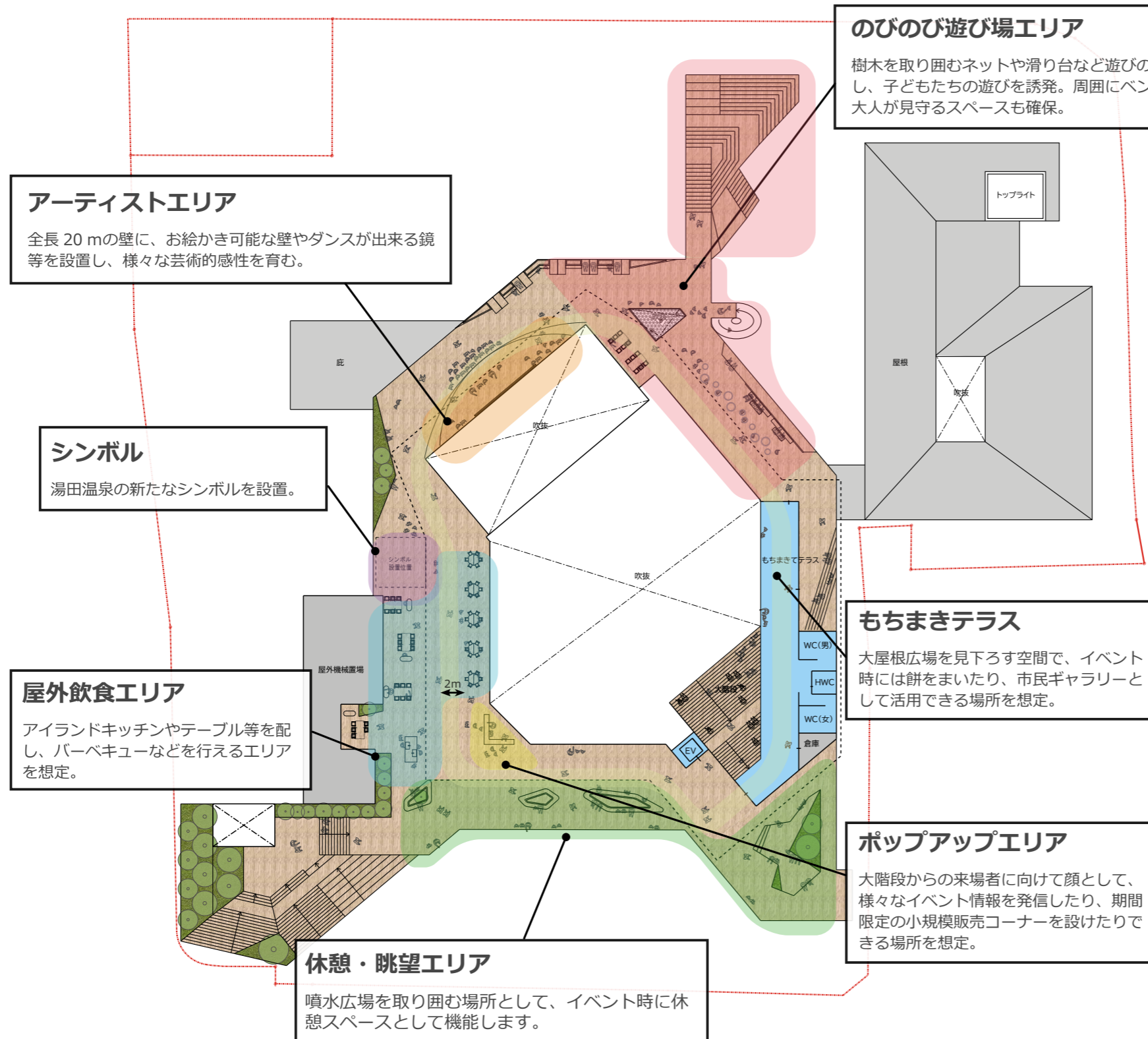


*** [バリアフリー浴槽のイメージ] ***



2. 2階の機能

- ・ 建物全体を公園のような空間にするため、大屋根広場を取り囲む2階を全面的にデッキスペースとし、各所にアクティビティを創出する仕掛け（オープンキッチン、アートウォール、遊具、植栽帯、など）を設けて、多様な活動が行える空間として設えます。



*** [眺望・休憩エリアのイメージ] ***

*** [屋外飲食エリアのイメージ] ***

*** [アーティストエリアのイメージ] ***

*** [のびのび遊び場エリアのイメージ] ***

*** [市民ギャラリーのイメージ] ***

3. 大屋根広場

①大屋根

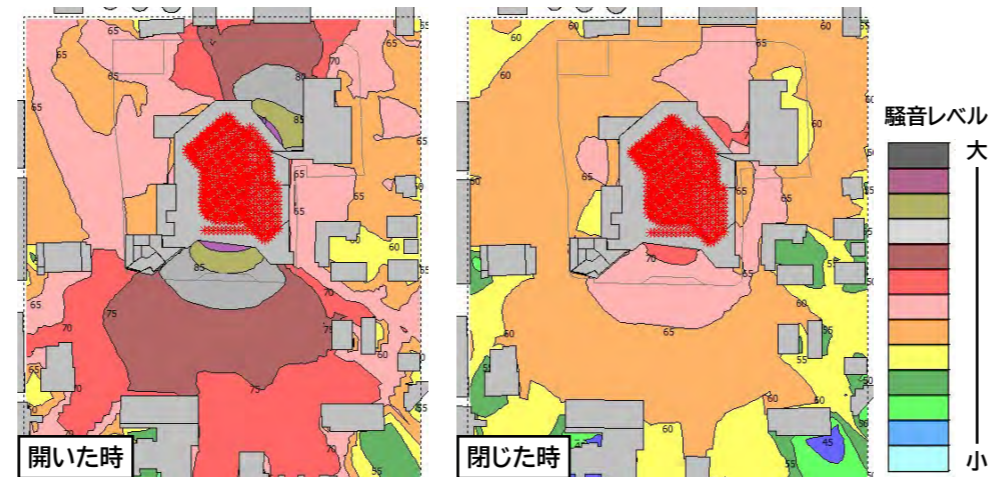
- ・雨天時においても多様なアクティビティを実施できる、全天候型の大屋根広場を設けます。
- ・大屋根の形状は、周辺の山並みと調和したシンボリックなデザインとします。
- ・内部においては地元産材を積極的に活用した、木質感の感じられる空間とします。
- ・日中は、湯田地域交流センターへの動線、エントランスとしての機能も果たします。

*** [大屋根広場のイメージ] ***

②大型可動間仕切りによる防音対策等

- ・前面道路側と地域交流センター側の開放部は、大型可動間仕切りにより閉じることで、イベント時に発生する音を周辺に対して軽減させる対策を行います。
- ・可動間仕切りを閉めた際にも、大屋根広場を快適に利用できるよう、空調設備を設けます。
- ・暴風雨時には閉鎖することで、大屋根の吹上への対策となります。

可動間仕切りによる防音効果のシミュレーション
(和太鼓を演奏した場合の高さ1.5mの地点の騒音レベル)

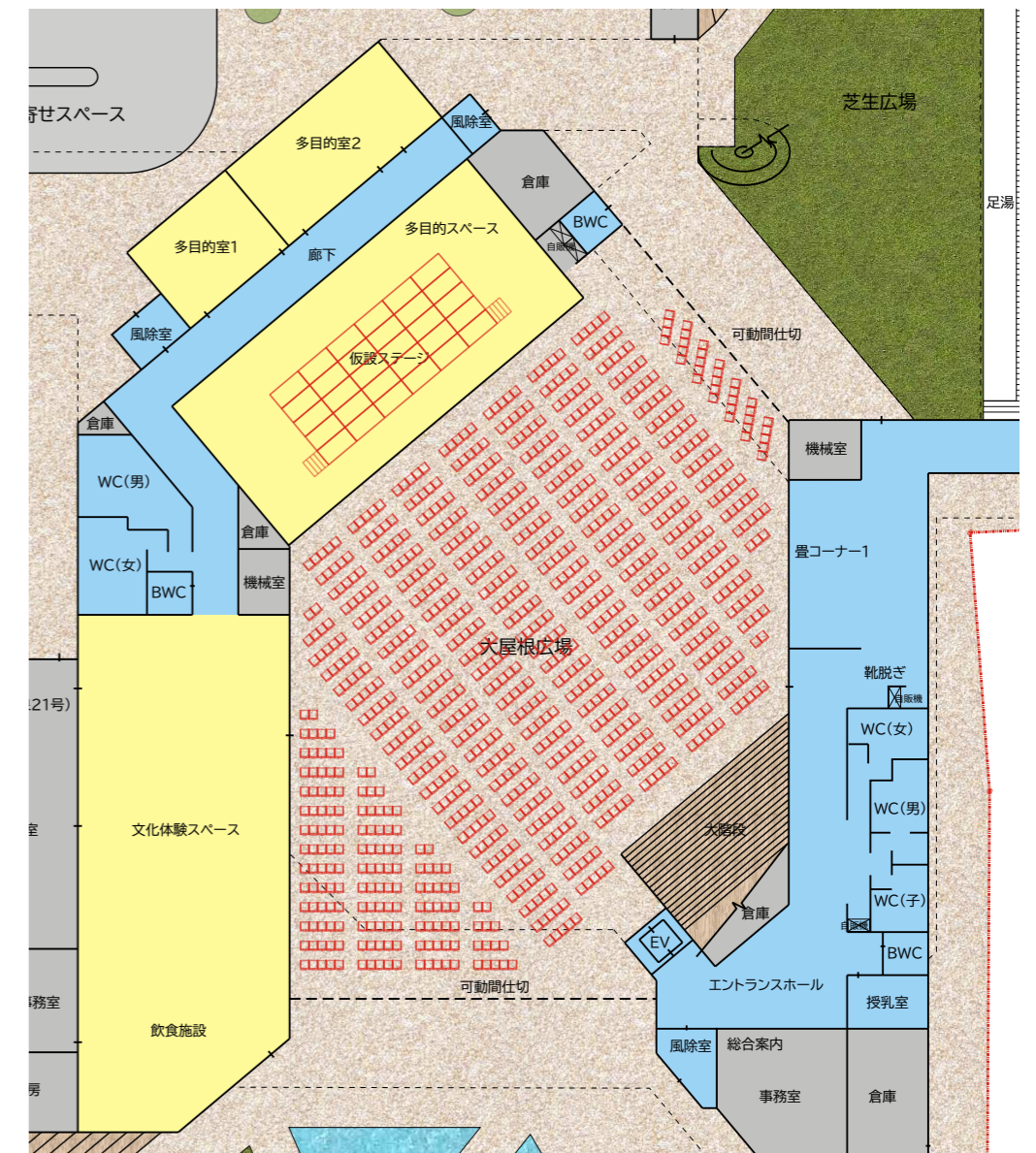


③大型ディスプレイ

- ・大屋根広場には、パブリックビューイング等で使用できる大型のディスプレイを設置します。
- ・通常時にはイベント情報等を告知するサインージとしても活用できます。

④多目的スペースとの一体的利用

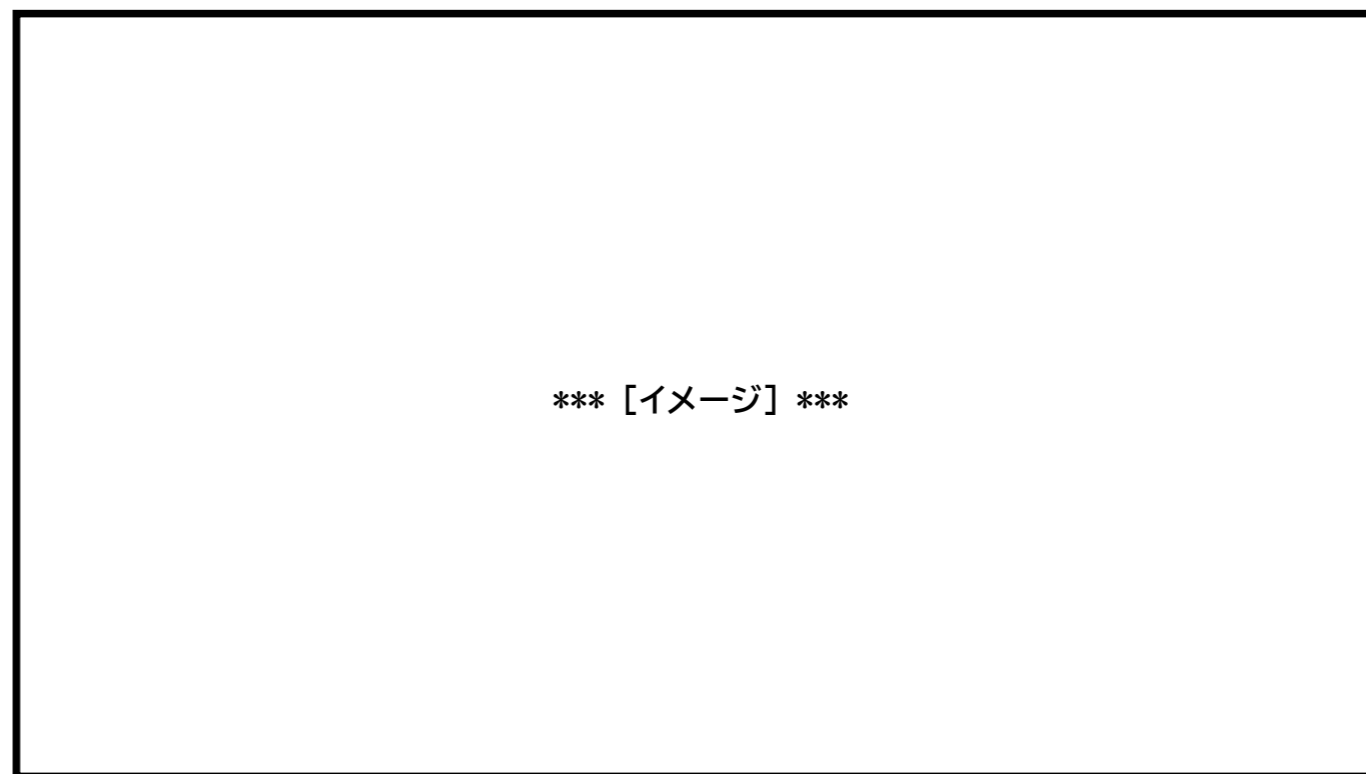
- ・多目的スペースと大屋根広場との間の間仕切りを開放することで、大屋根広場と一体的に活用することができます。
- ・可動式のステージを設置することで、大屋根広場と一体で、最大で1000人規模も行うことができます。



4. 活用イメージの例

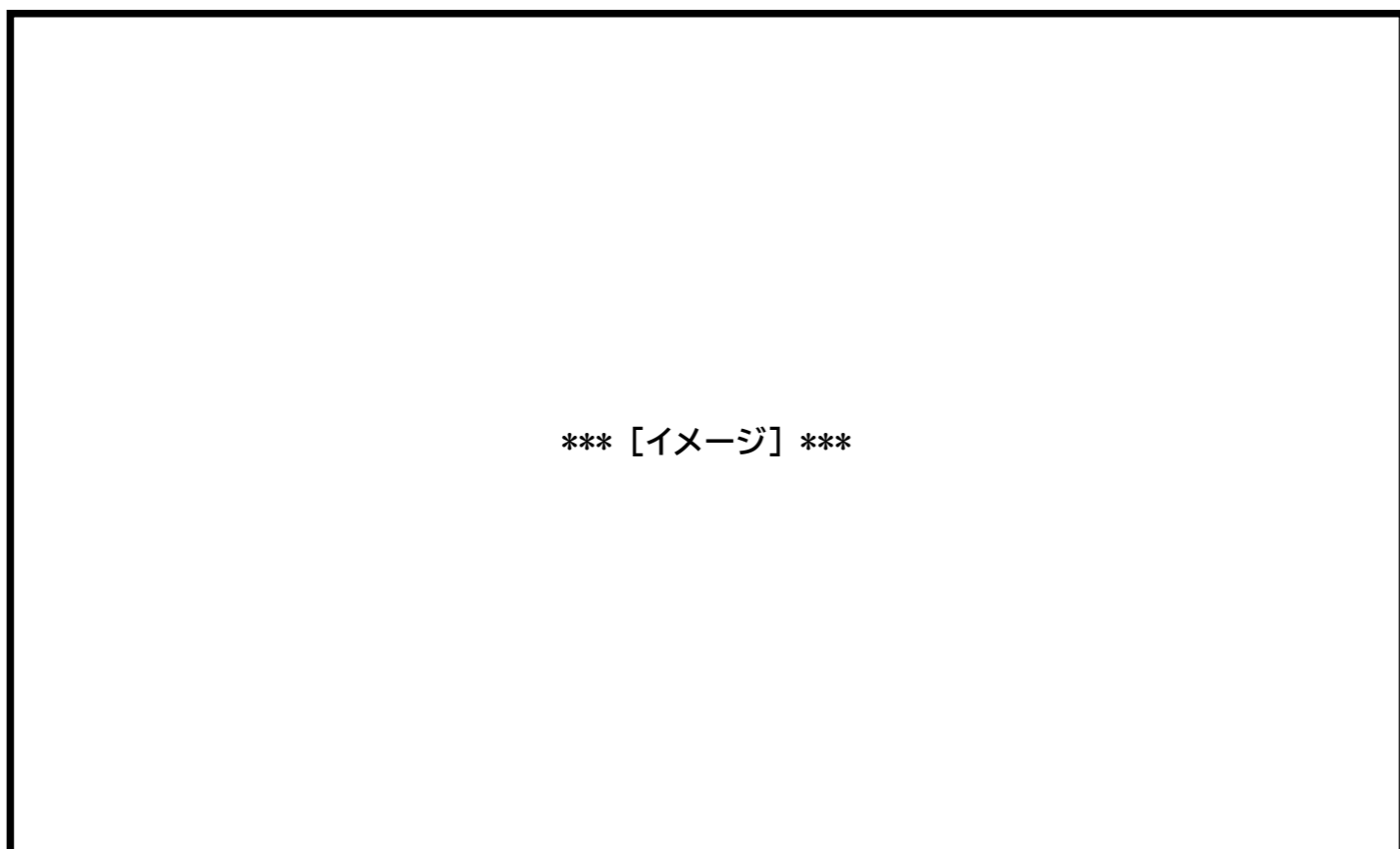


学びにつながる遊具の設置



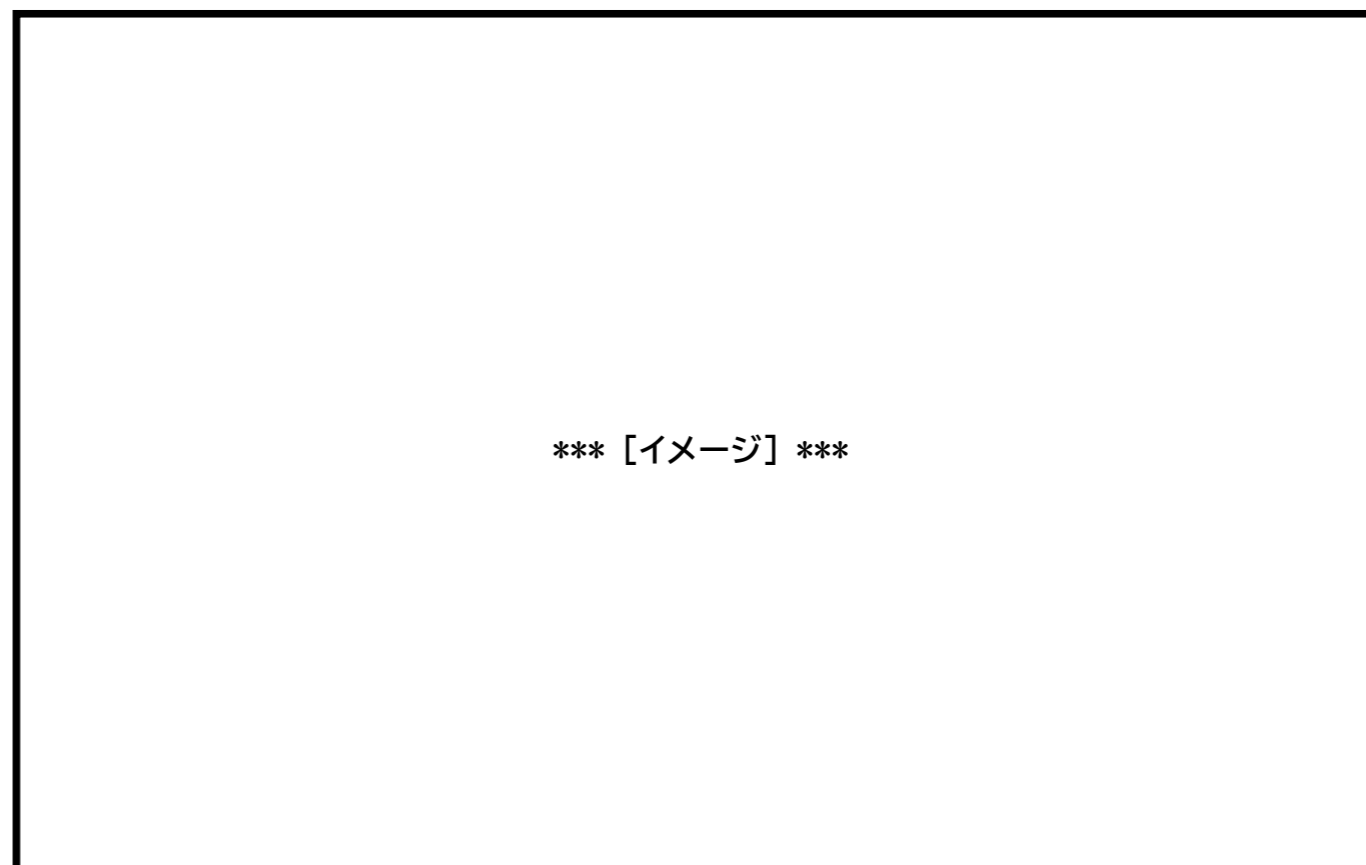
*** [イメージ] ***

地域のお祭りの場としての活用



*** [イメージ] ***

夏休みなどに子どもが楽しめる場として活用(例:迷路、お化け屋敷)



*** [イメージ] ***

*** [イメージ] ***

大屋根広場と多目的スペースを一体的に活用して、季節のイベントを行うイメージ

*** [イメージ] ***

大型ディスプレイを活用してパブリックビューイングを行うイメージ

*** [イメージ] ***

多目的スペースを使用したヘルスラボや大屋根広場での健康づくりのイメージ

*** [イメージ] ***

大屋根広場に面した大階段を使ってパフォーマンスなどを行うイメージ

*** [イメージ] ***

大屋根広場を使ってマルシェ等のイベントを行うイメージ（もちまきテラスより見下ろす）

*** [イメージ] ***

多目的スペースをステージとし、大屋根広場にてアフターコンベンション等を開催するイメージ

08 施設の特徴

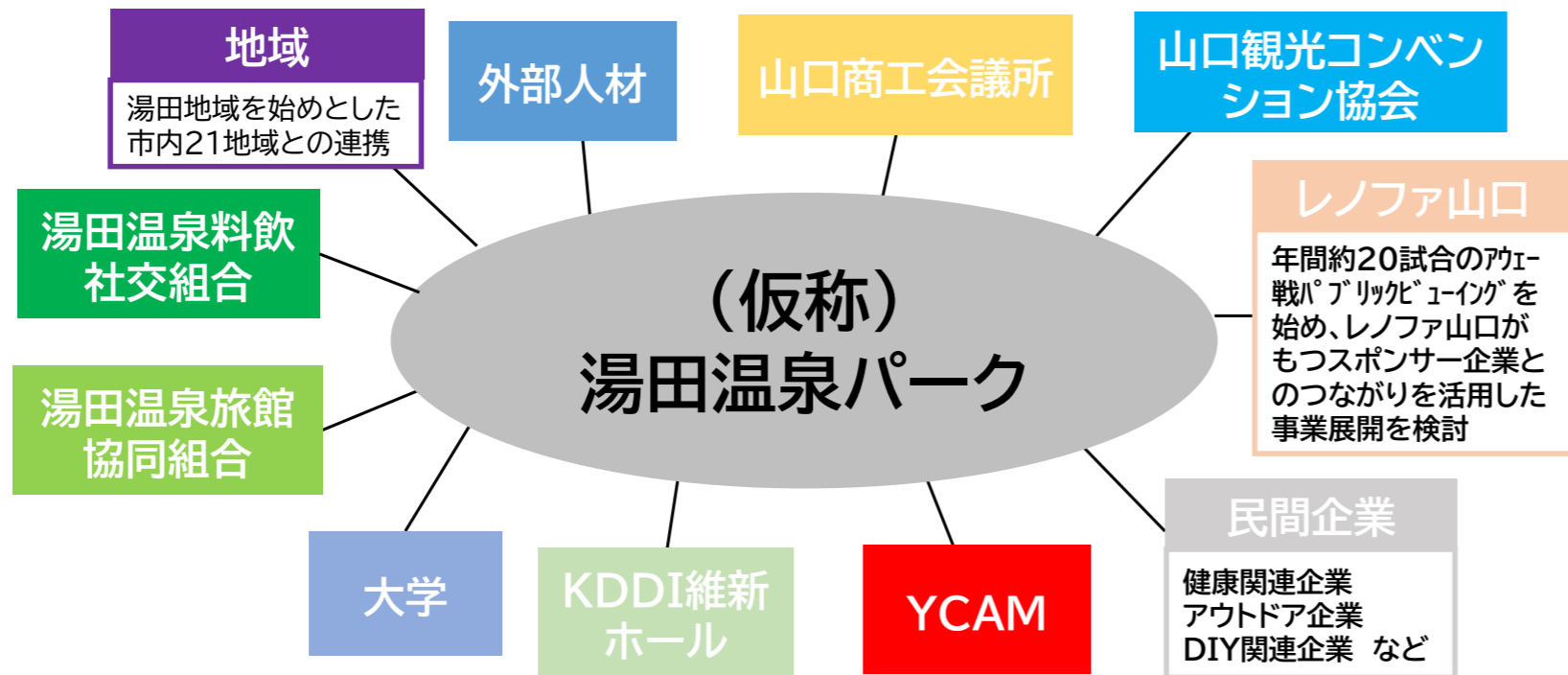
5. 施設運営に向けた仕掛けづくり

①地域団体、民間企業等との連携の仕掛けづくり

本施設で多様なイベントや講座を開催するために、地域や、レノファ山口をはじめとした民間企業等と連携ができるノウハウを持っているといったことを重視し、指定管理者を選定します。

②日常（市民）利用の仕掛けづくり

子どもを始め市民が日常的に施設を利用できるよう、市主催事業の開催や、地域おこし協力隊など外部人材の活力を生かした事業展開等を検討します。また、市民が施設づくりに参画する仕掛けについても、検討します。



あわせて、遊具や噴水の設置、気軽に腰掛けられるスペースや5G、フリーWifiの整備など、市民や観光客が何気なく立ち寄り、自由に過ごすことができる設備の整備も検討します。
また、こうした市民利用や多様なイベント開催が可能となる企画事業費を含む施設運営費について、実施設計において引き続き検討します。

6. 施設の整備効果

(仮称) 湯田温泉パークの整備がもたらす経済波及効果の検証

一般財団法人山口経済研究所の協力のもと、本施設整備が地域にもたらす経済波及効果を算出しました。(表1)

表1 項目別推計条件および経済波及効果

項目	推計の条件	経済波及効果(年間)
① 施設利用者によるもの	施設の年間利用者数10万人(現状の寿泉荘利用者数約2万5千人から7万5千人増加)とした場合	12億48百万円
② 定住人口増加によるもの	定住人口増加数を年間110人とした場合(※1)	61百万円

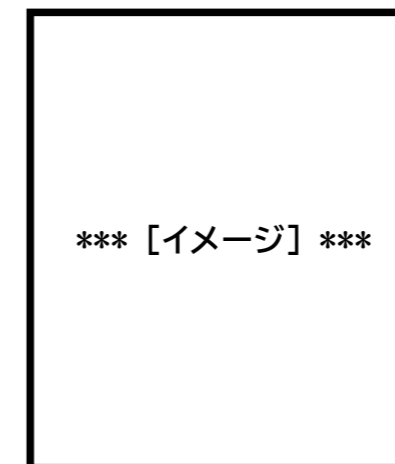
以上のことから、本施設整備により、年間13億9百万円(①+②)の経済波及効果が見込まれます。

(※1) H27 → R2 の湯田地域の人口増加傾向をベースに定住人口の年間増加数を想定。(H27 国勢調査と R2 国勢調査における湯田地域の人口を比較すると、572人増加しており、平均すると1年間で約110人増加している。)

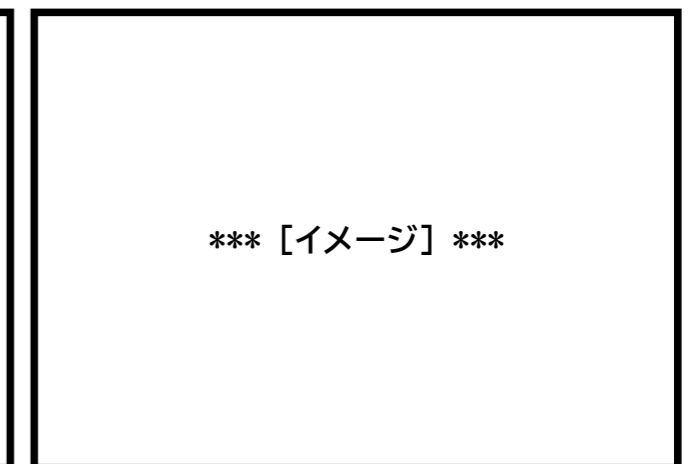
市民参加の例



(1) 検討時におけるワークショップの開催



(2) 施工時における共同作業(芝生張りなど)



(3) 運用開始時における募集(ロゴ・名称など)

【参考】住宅建設による経済波及効果

鉄筋コンクリート造マンション1棟(30戸)が建設された場合	831百万円
鉄骨造のアパート1棟(20戸)が建設された場合	278百万円
木造の戸建て住宅1棟が建設された場合	28百万円

1. スマートシティの推進

- 5GやICT等のデジタル技術を活用し、デジタルサイネージやスマートロックなどを活用した施設運営を行うとともに、YCAMなどの周辺の公共施設と連携した多様な施設活用を行います。

◎ デジタルサイネージ

表示内容が変更可能なタッチパネル式の液晶ディスプレイを設置し、イベント等の告知に使用。



◎ QRコードによる多言語対応

日本語が苦手な外国人に向け、多言語での説明が示されるQRコードを設置。



◎ 非接触操作エレベーター

感染症対策につながる非接触操作可能なエレベーターの活用。

... 案内 ... 交通 ... 運営 ... 遊び・学び

◎ カーシェアリング・シェアサイクル

アプリを利用し、いつでも誰でも使用可能なカーレンタルのブースを設置。



◎ MaaSアプリ・乗り合いタクシー

新山口駅の産業交流拠点施設の利用者がシームレスに（仮称）湯田温泉パークまで移動できる仕組みづくり。



◎ バスベイ

観光バスや社会科見学のバスが2台程度停車可能なバスベイを整備。

◎ デジタルチケット・スマートロック

市民が気軽に利用できる電子決済機能を含むWEB施設予約システム等の構築。
貸館スペースへのスマートロックの導入など、施設内での人との接触回数の低減や施設利用者の利便性の向上につながる取組の実施。



◎ 5Gを使用した高速通信環境

◎ ICT等のデジタル技術

◎ VR/ARコンテンツの提供

- YCAM等と連携した取組の実施。
- 山口市産業交流拠点施設のライフィノベーションラボと連携した、湯田温泉に暮らす人の健康づくりにつながる社会実証システムを構築。
- 子どもから大人まで全世代の市民が、高速通信環境を利用した学びや、VR等を活用した体験を楽しめる場等として活用。



◎ ワークーション・サードプレイス

・職住融合の新しい働き方への対応や、ビジネスマンの湯田温泉への来訪機会の増加に向け、地元企業や経済団体等のリモート会議やミーティング等の場として、また、ビジネスマンのワークーションや出張時等のサードプレイスとしての活用の促進。



◎ デジタルアート

・スマートフォンの操作と連動し、噴水の高さや色の調節が可能な仕掛けや大階段のプロジェクションマッピングなど。



※あくまで現時点でのイメージであり、実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります

1. 基本的な考え方

- 多世代、障がい者、外国人も含めて誰もが使いやすいユニバーサルデザインを実現します。
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」および「山口県福祉のまちづくり条例」に基づく整備とします。

2. 方策

①動線計画

- 大屋根広場を中心に据えたシンプルな平明計画により、分かりやすい動線計画を実現します。
- 駐車場からも前面道路からも温浴施設へアクセスしやすい動線計画とします。
- 駐車場には、底を張り出した車寄せを設けて、雨に濡れずに施設にアクセスできる計画とします。
- 車いす使用者用駐車場の上部に屋根を設け、雨に濡れずに施設にアクセスできる計画とします。
- 車いすやベビーカーが移動しやすいよう、ゆとりある通路幅を確保します。

②トイレ等

- バリアフリートイレを施設内に複数箇所配置し、使い勝手に配慮し、右勝手と左勝手の両方を設けます。
- 総合案内付近には、子育てに優しい設備として、授乳室や子ども用トイレも設置します。
- 一般トイレにオストメイト対応トイレを設置します。

③温浴施設

- 貸切風呂には昇降式の浴槽を設けて、車いす利用者も気兼ねなく温浴を楽しめる施設とします。
- 男女の浴場は、子どもや高齢者が安心して入浴できるよう、一定程度の広さを確保します。

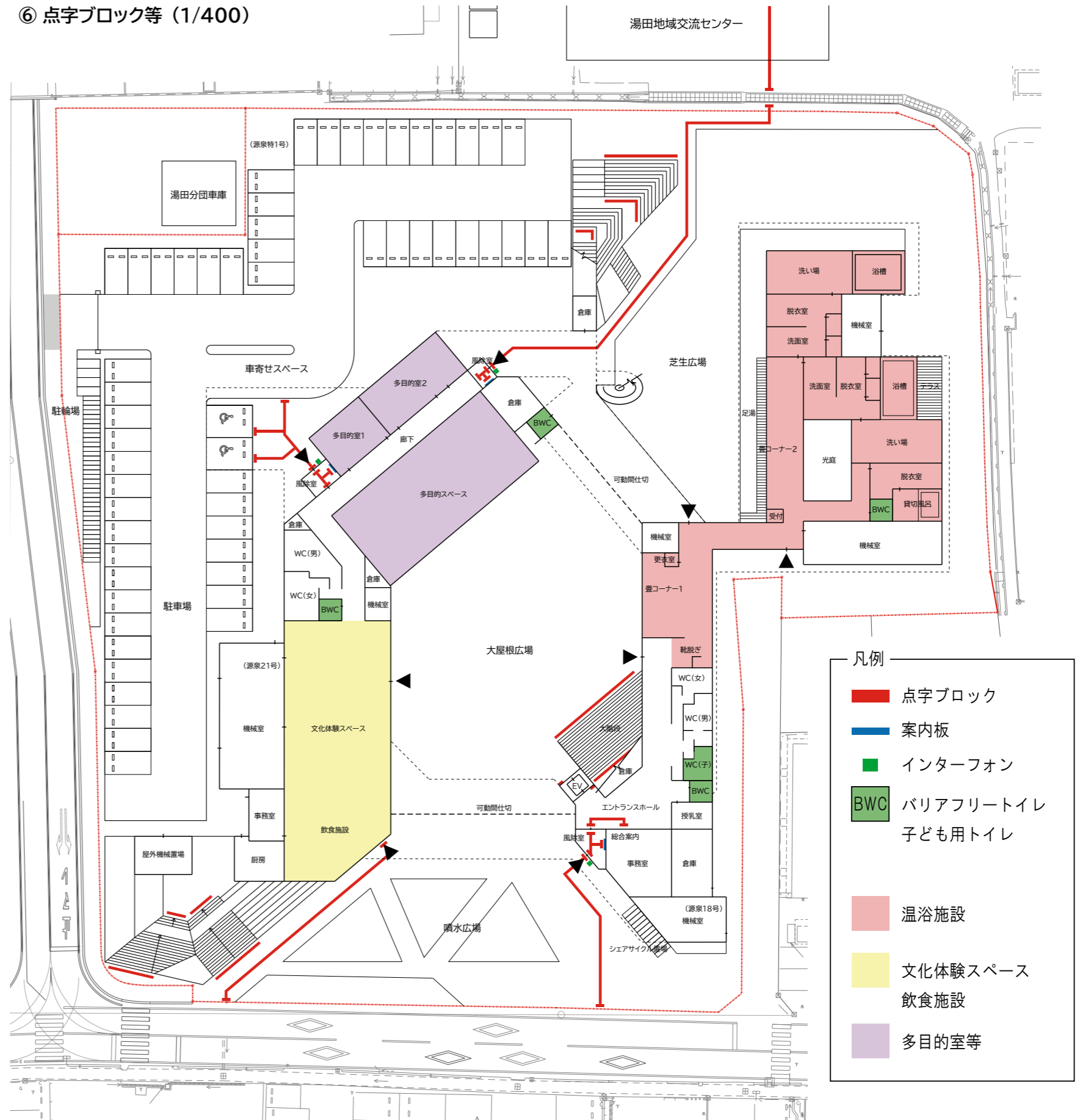
④サイン計画

- サインにより各部屋の位置を明確化します。QRコード等によるスマート対応により、多言語等にも対応させます。
- ディスプレイ等を活用し、災害などの非常時において視覚的にも認識できる設備を設置します。

⑤舗装材

- 舗装材やデッキ材には安全な床材を選定します。

⑥ 点字ブロック等 (1/400)



11 環境計画

1. 基本的な考え方

- 環境配慮型の建物として、省エネ設備の採用、高断熱、日射遮蔽等の空調負荷抑制、再生可能エネルギーの活用を図ります。

2. 通風

- 大屋根広場の空間特性（高天井）を活かし、建物を効率よく風が通る計画とします。
- 風の流れをシミュレーションにより検証し、屋根頂部への窓設置など最適な窓配置とします。

3. 地元産材の活用

- 建物は積極的な木質化を図り、木材は地元産材を活用します。

4. 再生可能エネルギーの活用

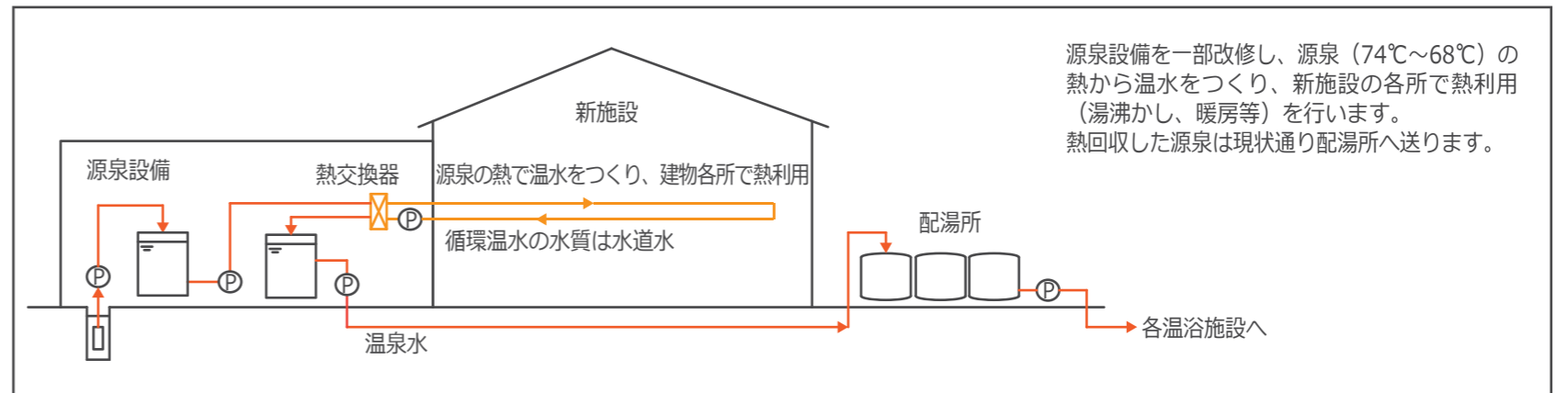
- 本施設の象徴となる大屋根と調和する形状にて太陽光発電パネルを設置し施設内で活用するほか、サイネージにて発電量の表示等を行い、来館者の省エネ意識喚起を行います。
- 敷地内に存在する湯田温泉の既設源泉を利用し、高温の源泉から熱を取り出し建物内で活用することで、温浴設備や暖房設備の消費エネルギーを大幅に削減します。

5. ZEB Oriented の達成

- 一次エネルギー消費量を 25% 削減し、ZEB Oriented の達成を目指します。

6. SDGs への取り組み

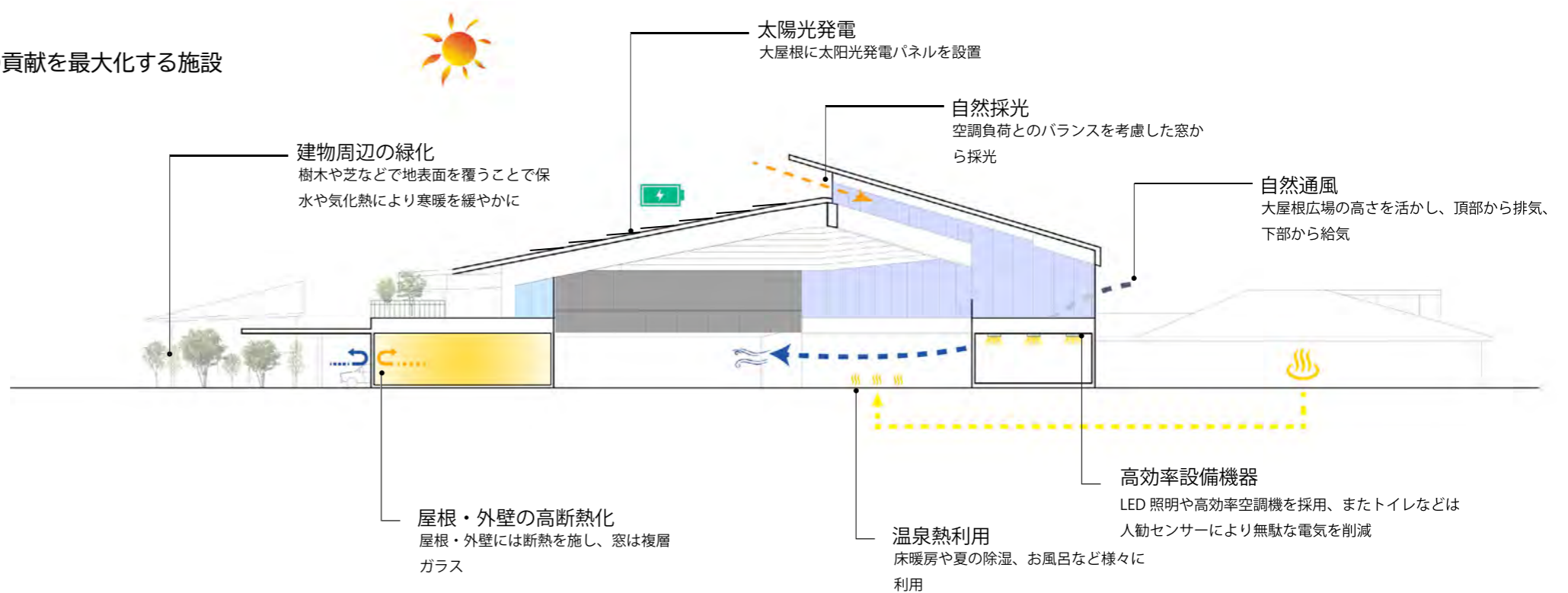
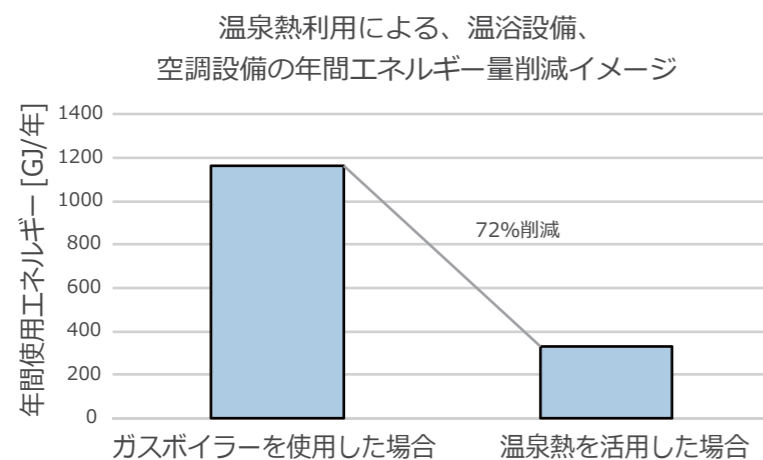
- SDGs（持続可能な開発目標）に掲げられた目標への貢献を最大化する施設づくりを行います。



新施設建設後のシステム

熱利用項目	床暖房（大屋根広場）	給湯	浴槽昇温	デシカント空調	床暖房（屋内）
設備イメージ					
概要	大屋根広場の床面を暖めて、冬期イベント時の快適性を高める。	シャワー・カランの給湯用貯湯槽に熱供給する。	ろ過循環の過程で熱供給し浴槽（温泉）を昇温・温度維持する。	温水を利用して夏期は除湿を行い快適性を高め、冬期は温水で暖房を行う。	夜間の源泉熱を活用、コンクリートの蓄熱性により床面・座面等を暖める。

温泉熱利用技術



1. 基本的な考え方

- ・「山口市地域防災計画」等との整合性を図り、災害時には、湯田地域交流センターや山口勤労者総合福祉センター「サンフレッシュ山口」といった周辺公共施設と連携し、市民の安全確保を図ります。
- ・指定避難所としての活用を想定し、避難所となるスペースのライフライン（電気・給排水）自立化対策、地震後にも建物を継続使用できる高い耐震化を図ります。

2. 電源確保

- ・非常用発電機を設置し、消火・避難用設備の電源を確保するほか、避難所とした際には、給水ポンプ、照明、空調換気設備に送電し、建物の機能維持を図ります。
- ・太陽光発電による電力も停電時の貴重な電力として利用します。

3. 給排水確保

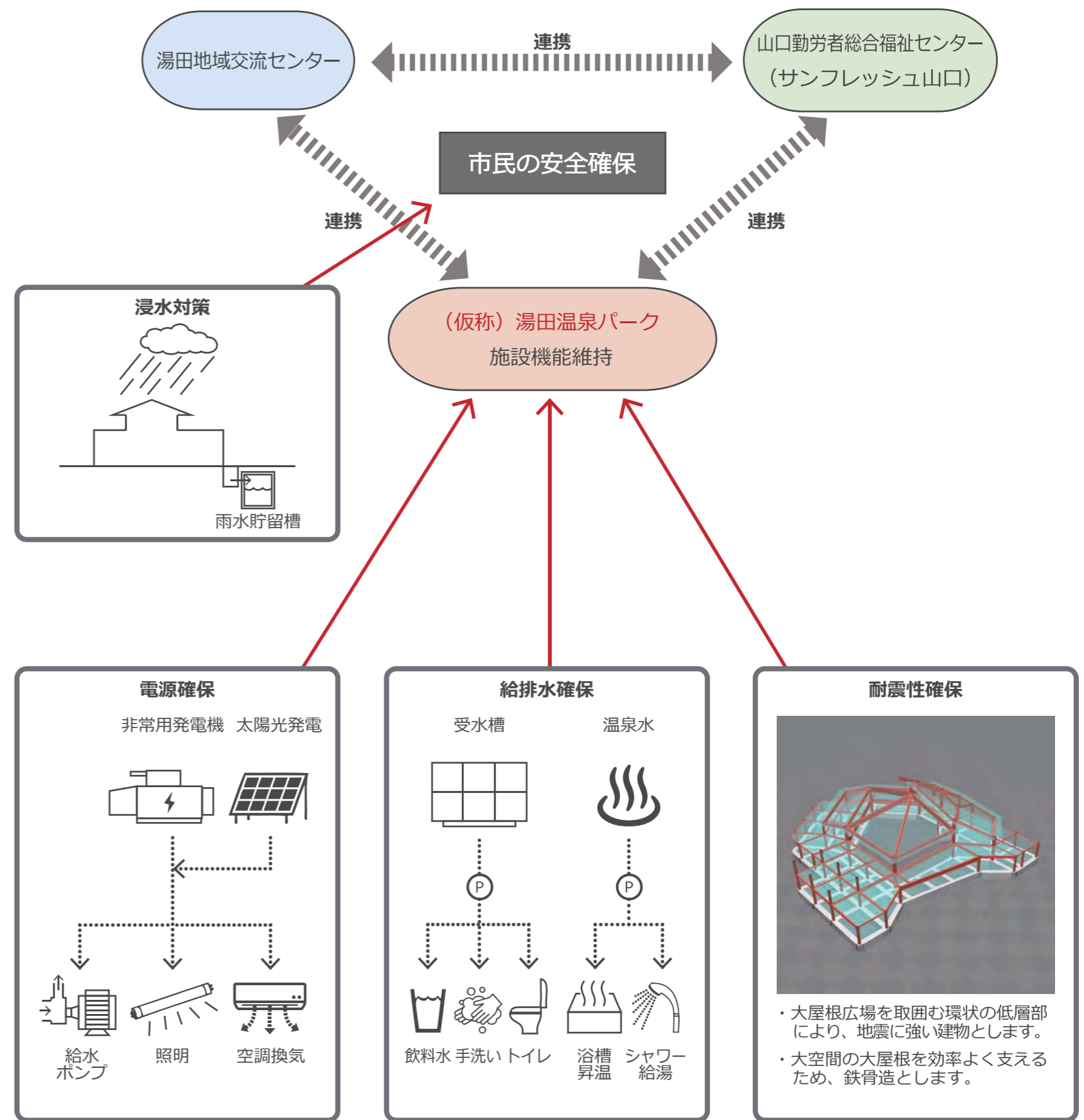
- ・停電・断水時には、施設内の受水槽を水源とし、給水ポンプの電源を非常用発電機にてバックアップすることで、トイレ・手洗等の給水機能を維持します。
- ・大地震による下水本管の故障に備え、貯留型のマンホールトイレを設置します。
- ・施設の特性を生かし、断水時においても、継続した温泉（風呂）の利用が可能となるよう配慮します。
- ・地震等によりガス供給や給水が停止した場合でも、源泉汲みあげ・温泉循環が機能継続していれば、温泉熱利用によって温浴設備（浴槽昇温、シャワー給湯）が継続利用可能な計画とします。

4. 耐震性確保

- ・耐震構造（重要度係数 1.25）を採用することにより、地震時に対する安全安心の確保に配慮した構造計画とします。
- ・構造体以外の二次部材や設備機器の耐震性の確保、家具等の転倒防止対策など安全性と経済性を配慮した防災対策を図ります。
- ・大屋根を有する本棟は、大空間の架構に適した鉄骨造とします。温浴棟は、水を扱うこと、小部屋が集積した建物であることから、鉄筋コンクリート造とします。

5. 浸水対策

- ・本施設整備と連携を図りながら、整備予定地に隣接する水路の改修等を行うとともに、新たに水路を設け、整備予定地周辺の雨水排水対策を強化します。
- ・加えて、整備予定地内の地下に雨水貯留槽を設置し、湯田地域における雨水貯留機能を高めます。



1. 工程計画

敷地内には既存施設があり、温浴機能や消防分団車庫の機能は継続的に使用できるようにするため、段階的な解体・建設を計画的に行う必要があります。

■ 新築 ■ 運用中 ■ 既存解体



2. 整備スケジュール

以下のスケジュールを想定し、施設の整備を進めます。



3. 概算事業費

施設整備費は基本計画時点では約22億円です。※基本設計の内容をもとにした整備費は現在算出中

なお、交流機能の整備内容に応じ、施設整備費に増減が生じる可能性があります。今後、実施設計段階で各機能の整備内容等を具体化していく中で、施設整備費についても具体的な精査を行っていきます。

事業費内訳

※大屋根広場の防音対策に伴う可動間仕切りや空調の設置、デジタル化やスマートシティへの対応、資材の高騰など、基本計画策定以降の整備内容の変更を踏まえた事業費を現在積算中です。